

JENESYS²⁰¹⁸ 公益財団法人日韓文化交流基金 企画競争公募事業

第25回「日韓高校生交流キャンプ」開催報告

当協会では、『第25回日韓高校生交流キャンプ』を7月29日～8月2日の4泊5日間、広島にて開催しました。

両協会では日韓青少年交流事業として2004年1月から日韓高校生交流キャンプを始めて、今回で25回目、延べ2,293人の交流実績となりました。なお、キャンプ参加者はキャンプ後も交流を続け、2006年から自主的にOB/OG会を結成して、更なる交流と理解を深め合う活動を続けています。

このキャンプは、将来の両国経済界を担うであろう日韓の高校生を対象にしています。

「国際平和文化都市」として世界的に知名度の高い広島市にて開催した「第25回日韓高校生交流キャンプ」では、両国高校生が10人前後の日韓混成チームに分かれ、平和記念資料館や原爆ドームを見学したり、広島にある各種産業施設にて日本経済の現場体験を行い、その体験学習を基に、世界平和につながる日韓両国で通用する新たなビジネス案を企画・発表しました。

今回は日本側から34校40名、韓国側から28校35名、合わせて62校75名の日韓高校生が参加しました。なお、キャンプOB/OGの大学生も運営ボランティアとして参加しました。

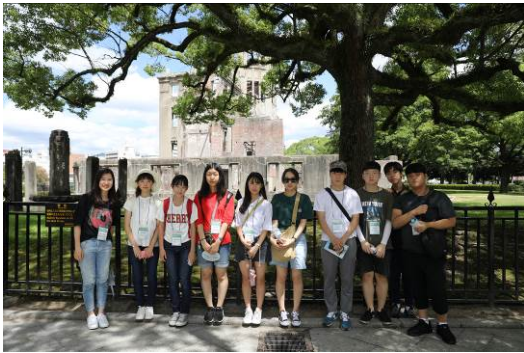
- 会 場 : 広島県広島市「世羅別館」
- 期 間 : 2018年7月29日(日)～8月2日(木)
- 参 加 者 : 高校生75名(日本側40名、韓国側35名)
- 事業形態 : JENESYS2018 [公益財団法人日韓文化交流基金 企画競争公募事業]
- 主 催 : 一般社団法人日韓経済協会、一般財団法人日韓産業技術協力財団
韓国産業通商資源部、社団法人韓日経済協会
- 後 援 : 外務省、国土交通省
- 協 力 : 広島県、株式会社JTB
- 運 営 : IVITT 研究所株式会社

第25回「日韓高校生交流キャンプ」プログラム							
時間	7.29(日)	7.30(月)	7.31(火)	8.1(水)	8.2(木)		
07:00	韓国学生 仁川空港 ➤ 広島空港 (RS732)	起床&朝食	起床&朝食	起床&朝食	起床&朝食 日韓学生お別れ		
08:00		「平和学習講座」 原爆ドーム & 平和記念資料館 見学	事業発表準備1	事業発表の リハーサル2	日本学生解散 韓国学生 広島空港へ移動		
09:00						事業発表会	韓国学生 出国手続き
10:00							
11:00		昼食	昼食	昼食	韓国学生 広島空港 ➤ 仁川空港 (RS731)		
12:00							
13:00	日韓学生 会場集合	日本経済 現場体験	「自然災害による 悲劇と復興」講座	表彰及び修了式	韓国学生解散		
14:00			事業発表準備2			Action Plan発表	
15:00				友達に一言！			
16:00							写真スライドショー & アンケート
17:00			オリエンテーション				
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	Finale Festival		
19:00	友達作り	ゴールデンベル (クイズ大会)	事業発表準備3 & 事業発表の リハーサル1	両国伝統遊び			
20:00	事業案の決定1	事業案の決定2					
21:00	就寝	就寝	就寝	就寝			



初日、広島の会場に参加者が集まり、「オリエンテーション」で5日間のキャンプがスタートしました。続いて行われた「友達づくり」プログラムでは、チーム毎に自己紹介を行ったり、用意してきた写真を見せ合ったりしながら、日本語・韓国語・英語またはボディーランゲージ交じりでお互いに何とか意思疎通を図ろうとする姿が見られました。

二日目、参加者全員で広島平和記念資料館へ移動し、展示されている被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真・資料を見学した後、「平和学習講座」に参加し、被爆の実相や核兵器をめぐる世界情勢について説明を受けました。一行は広島平和記念公園を通り、世界



文化遺産に登録されている原爆ドームを見学しました。

午後は、「日本経済現場体験」として、チームの事業カテゴリ別に、[環境]チームはゴミ処理工場である中工場を、[ものづくり]チームはマツダミュージアムを、[農林水産]チームは牡蠣の養殖場である山根水産を、[飲

食サービス]チームは、オタフクソース本社工場を訪れ、其々該当する事業に関する講話や職員インタビュー、また現場での仕事を直接体験してみることで、新たな事業を企画するための様々な情報を収集しました。

夕食後は、日韓でペアを組んで挑む、勝ち抜きクイズ大会の「ゴールデンベル」を行いました。チーム以外の参加者との交流を深める機会にもなり、大いに盛り上がりました。



三日目、終日、キャンプ会場にて事業発表会の準備作業を行いました。事業戦略を練り、翌日の事業発表会に向けてPPT資料や広報物の作成、コマーシャル動画の撮影と編集、小物づくり等、熱気を帯びた協働作業が続きました。チームで一つの結果を出すべくアイデア集約や意見調整等、限られた時間を精一杯活用し、討議と作業に没頭していました。また、「自然

災害による悲劇と復興」というタイトルで、自然災害とその対策や復興・復旧に関する講座を行いました。

四日目、いよいよ「**事業発表会**」の日です。持ち時間は各チーム15分、夜通し準備したビジネス企画を発表し、質疑応答も活発に行われました。審査員として、日韓経済協会 是永 和夫 専務理事、韓日経済協会 徐 錫崇 常勤副会長、三菱商事 榎本 好一 中国支社長、駐広島大韓民国総領事館 宋 熙眞 領事の4





名の方々が、各チームの真面目で一生懸命な発表に報いるべく真剣に審査を行いました。

審査の結果、**最優秀賞**は「Not Mean」と題した難民を活用し、農林水産業分野の人手不足の解決と世界平和に寄与する事業を企画したチームに決まりました。

審査員特別賞は、「RAIN BOWL」と題した水害、洪水などの自然災害の問題を解決する

ためのマシンを設置し、自然再生エネルギーへ変換、被害を受けた国や水不足問題を解決する事業を企画したチームが受賞しました。また、**人気賞**、**チームワーク賞**がそれぞれ表彰され、最後に参加者全員にキャンプ修了証が渡されました。

表彰式の後には、今回の経験を活かして、これから日韓交流のために具体的に何をするのかについて考えて発表する「Action Plan 発表」や参加者同士で寄せ書きを贈り合う「友達に一言」、またこの4日間のキャンプの様子をスタッフの撮った写真で振り返ってみる「写真スライドショー」で盛り上がりました。

その後、「Finale Festival」が始まり、参加者による歌や踊りなど多彩な特技が次々と披露され、盛り上がりも最高潮に達しました。また、日本の浴衣および韓国の韓服(ハンボク)を各々相手国の学生が着る「両国伝統衣装ファッションショー」も行われました。続いて、「両国伝統遊び」で、韓国のチェギチャギやコンギノリ、日本のケン玉や羽根つきなどで体を動かし、事業発表の緊張からの開放感を満喫していました。

最終日、いよいよ両国学生お別れの時が訪れました。両国参加者共に分かれ難く、抱き合って涙を流しながら、再会の日を約束し合う光景が多く見受けられました。

こうして4泊5日間のキャンプ全日程を無事に終了し、参加者は皆それぞれの思い出を胸に家路につきました。



以上